

第1章 古代オリエントと地中海世界 §1.古代オリエント世界

1 オリエントとは

(ア) (1) )とは?

- ①意味：ラテン語で (2) ) という意味
- ②場所：現在の中東

(イ)各地域の特徴


- ① (3) ) (川の間の方という意味、ほぼ現在のイラク)
  - (4) ) 川、 (5) ) 川の流域
  - 開放的な地形→多くの民族が興亡
- ② (6) )
  - (7) ) の流域
  - 閉鎖的な地形→異民族の侵入が困難、エジプト語族(ハム語系)の支配が続く
- ③ (8) ) (東地中海世界)
  - メソポタミアとエジプトを結ぶ交通路
  - セム語系の民族が中継貿易(陸路・海路)で活躍

2 シュメール人の都市国家

前30世紀

(9) )人の登場


- ①メソポタミア南部に (10) ) を建設  
例) (11) ) (12) ) など
- ②シュメール人の文化  
✓ (13) ) (聖塔) の建設



- ✓ (14) ) の発明(粘土板に記録)
- ✓ (15) ) (シュメール人の英雄伝説、ノアの洪水の原型?)

前24世紀

(16) )人の登場  
→シュメール人の都市国家を征服し、メソポタミアに統一王朝 (17) ) を建設



▲アッカド王サルゴン1世

---

前20世紀

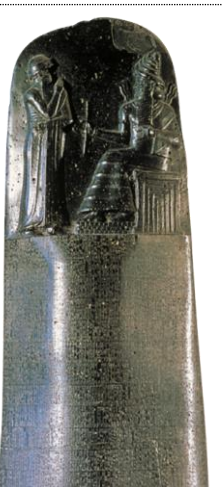
(18) )人の登場

- ① (19) ) の建設
- ② (20) ) 王の時代が全盛期  
→ (21) ) の制定

**資料 ハムムラビ法典**

196条 他人の目をつぶしたものはその目をつぶされる

199条 他人の奴隷の目をつぶしたり骨を折ったりした者は、その奴隷の価の半分を支払う



☞上記の資料は、ハンムラビ法典から抜粋したものである。これからこの法典のどのような特質がわかるか、2つ書いてみよう

- ① 「 \_\_\_\_\_ 」
- ② 「 \_\_\_\_\_ 」
- ③ (22) ) により滅亡

---

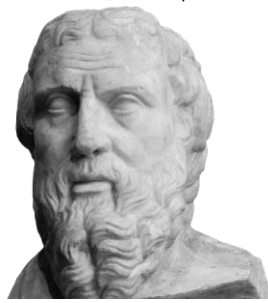


前15世紀

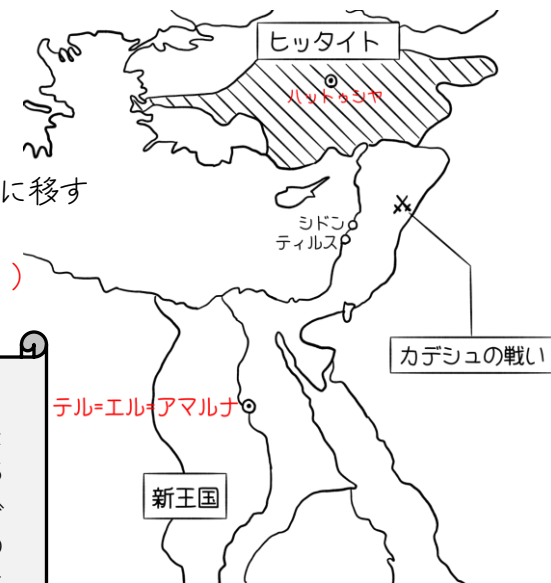
(23) ) 小アジアに建国

- ✓戦車や (24) ) の武器を使用し、勢力を拡大
- ✓シリアに進出し、エジプトと戦う (25) )

第1章 古代オリエントと地中海世界 §1.古代オリエント世界

3 エジプトの統一国家

統一王朝の成立	<p>(1) ) 流域は肥沃な土壌 →ギリシャの歴史家ヘロドトス「2</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>資料 エジプトはナイルのたまもの</b> 川が自分で水かさを増して来ては彼らの田畑を灌漑し、そして、それが灌漑してはまた元へ撤退するや、各自が田畑に種子をまいて (ヘロドトス『歴史』巻第二の13)</p> </div> <div style="text-align: right;">  <p>」と評した ▲ヘロドトス</p> </div> <p>ナイル川流域に都市国家 (3) ) が形成される</p>
前30世紀	<p>(4) ) (王) により都市国家が統一される ※約30の王朝が交替(その内、栄えた時期を古王国、中王国、新王国に分類) 太陽神 (5) ) の化身として、神権政治を行う</p>
前27世紀	<p>(6) ) 都 (7) ) の建設 (クフ王の ✓ (8) ) のものが最大)</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;">  <p>地中海</p> <p>ギザ メムフィス</p> <p>古王国</p> <p>中王国</p> <p>テーベ</p> </div> </div>
前22世紀	<p>(9) ) 都: (10) ) ✓末期に遊牧民の (11) ) に支配される</p>

前16世紀	<p>(12) ) 都: テーベ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ヒクソスを追放し、シリアへ進出 (トトメス3世 最大領土)</li> <li>② (13) ) の改革 ✓ 都を (14) ) に移す ✓ (15) ) 神の信仰を強制 →自らも (16) ) に改名する</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>資料 アトン神賛歌</b> あなたは天の地平線に美しく現れる、あまちは生けるアテン、生命の始まり。(中略) あなたの光線はあなたの創った万物の果てまでも包み込む。(中略)。おお、並ぶべきもの無き唯一の神、あなた御自身の望むがままに世界を創られた、お一人で。 すべての人間、家畜、そして野の獣、地上にあって足で歩くものすべて、高みにあって翼で飛ぶものすべてを。シリアやヌビアの国、エジプトの国、あなたはすべての人々にふさわしい場を与え、彼らの求めに応じ日々の糧を与え、その人生の長さを決めた (歴史学研究所編『世界史史料I』岩波書店より引用)</p> </div> <div style="text-align: right;">  <p>ヒッタイト</p> <p>シドン ティルス</p> <p>カデシュの戦い</p> <p>テル=エル=アマルナ</p> <p>新王国</p> </div>
	<p>☞上記の資料からアトン神はどのような神か読み解こう</p> <div style="border: 1px solid black; height: 80px; width: 100%;"></div>

第1章 古代オリエントと地中海世界 §1.古代オリエント世界

エジプトの文化

①太陽神ラーを中心とする多神教

靈魂は不滅だと信じ (17) を作成  
→ 「18」 とともに埋葬した



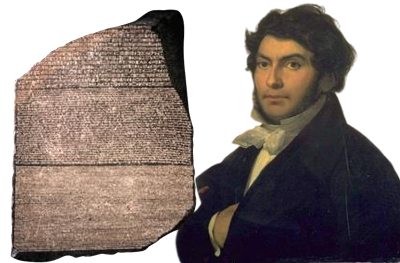
▲『死者の書』生前の善行などを記録

※古代エジプトの神々

ラー	ハヤブサで表される太陽神、ファラオはラーの子とされる
アモン	テーベの守護神、新王国時代にラーと結合
オシリス	冥界の神、「死者の書」(死者の生前の善行を記した書)をもとに、死後の魂に審判を下す

②文字

(19) (神聖文字) : 碑文、神殿、墓に刻まれる  
✓フランスの (20) が (21) もとに  
解説




(22) (民用文字)  
✓最も簡略化された文字 (23) などに  
記録された

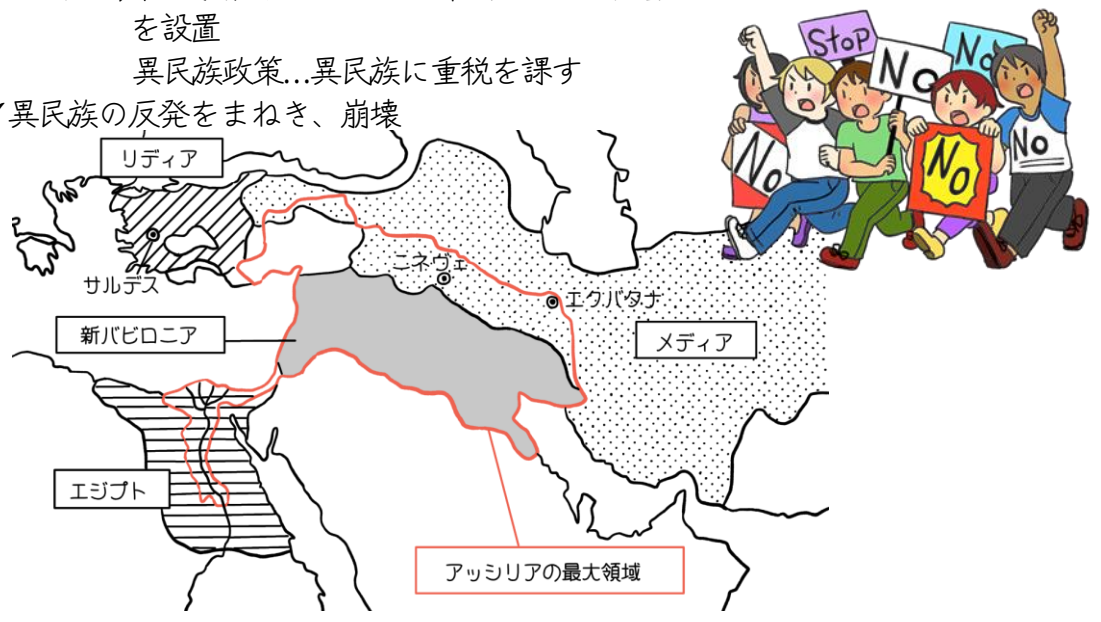
古代エジプトの文字	
ヒエログリフ (神聖文字) 墳墓や石碑などに刻まれた象形文字	
ヒエラティック (神官文字) ヒエログリフを簡略化したもの	や
デモティック (民用文字) ヒエラティックをさらに簡略化したもの	み

4 東地中海世界

前13世紀	ヒッタイトとエジプト新王国の支配 → (1) の進出により後退
セム系の3民族	<p>セム系の3民族が活動を開始</p> <p>① (2) 以下の港市を拠点に活躍 ✓ウガリット: 最古の港市 ✓ (3) →エジプト産パピルスのギリシャへの積出港 ✓ (4) 現在のベイルート その南のシドン、(5) (カルタゴの母市) など</p> <p>※フェニキア文字は (6) の原型に</p> <p>② (7) (8) を拠点に内陸貿易で活躍</p> <p>アラム語は当時の国際商業語 →様々な文字の元になる 西アジアのヘブライ文字、(9) 文字 中央アジアの (10) 文字、(11) 文字</p> <p>③ (12) 自らは (13) 人と呼称、後に (14) 人と呼ばれる 始祖アブラハムの指導の下、(15) の啓示を受けて、(16) の地に移住 →12の部族が形成される、一部はエジプトに移住</p>

第1章 古代オリエントと地中海世界 §1.古代オリエント世界

出エジプト	<p>(17) ) の指導の下エジプトを脱出          →その途中、シナイ山で (18) ) を授けられる          →ユダヤ教の律法のもとになる</p> <p><b>資料 モーセの十戒</b></p> <p>1 汝は私の他に、何者をも神としてはならない。          2 汝は自分のために刻んだ像を造ってはならない          3 汝は、汝の神・主の御名をみだりに唱えてはならない。          4 安息日を覚えて、これを聖とせよ。.....          5 汝の父母を敬え。          6 汝殺すなかれ。          7 姦淫をしてはならない。          8 汝盗むなかれ。          9 隣人について偽証してはならない。          10 汝の隣人の家をむさぼってはならない。</p>	 <p>▲モーセ</p>
王国の建設	<p>前11世紀にエルサレムを都にし、王国を建国          ✓ (17) ) 王、ペリシテ人を破り、王国を拡大          ✓ その子 (18) ) 王のとき、最盛期となる          しかし、庶民は重税に苦しむ</p>	
王国の分裂	<p>前922年 王国は南北に分裂          北： (19) ) (都：サマリア)          アッシリアに滅ぼされる          南： (20) ) (都：エルサレム)          新バビロニアに滅ぼされる          →このとき、多数のヘブライ人が強制移住をさせられる          (21) )</p>	

ユダヤ教の成立	<p>その後エルサレムに帰り、神殿を建設          →民族の苦難の歴史を『22) )』にまとめる</p> <p>ユダヤ教の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓唯一神 (23) ) を信仰する一神教</li> <li>✓預言者モーセ</li> <li>✓ユダヤ人のみが救われる (24) )              →救世主 (25) ) の到来を期待する</li> </ul>
前7世紀	<p>5) 東地中海世界</p> <p>(1) ) による統一 都： (2) ) )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓全オリエントを初めて統一</li> <li>✓ (3) ) 王の時代が全盛期              統治)中央集権体制...全国を州に分けて、総督を設置              異民族政策...異民族に重税を課す</li> <li>✓異民族の反発をまねき、崩壊</li> </ul>  <p>アッシリアの最大領域</p>

第1章 古代オリエントと地中海世界 §1.古代オリエント世界

四王国分裂時代

- ① エジプト
- ② (4) (小アジア) 世界最古の (5) を使用
- ③ (6) ネブカドネザル2世がバビロン捕囚を行う



- ① (7) メディアから独立し、建国  
リディア、メディア、新バビロニアを征服  
※ユダヤ人を解放したのはこの人
- ② (8) エジプトを征服し、オリエントを統一！ (前525年)
- ③ (9) アケメネス朝の全盛期  
✓大帝国の建設...西エーゲ海～東インダス川



✓新都 (10) の建設

アケメネス朝ペルシア



▲ペルセポリス

ペルセポリス ダレイオス1世が建設をはじめた宮殿群は、最終的に完成することなく、アレクサンドロスによって火がはなされた

✓全国を20の州(サトラ)に分け、治安維持と徴税にあたる知事

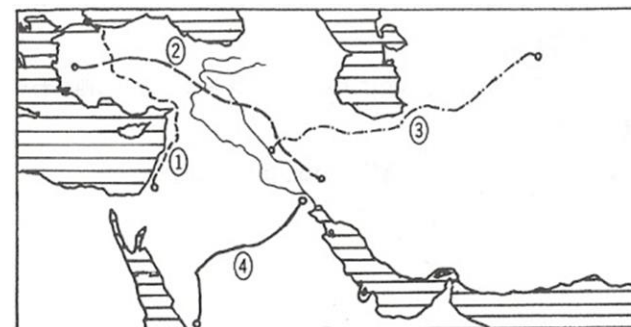
(11) を派遣

→王直属の監察官の (12) (13) がサトラップを監視

✓全国の要地を結ぶ (14) をつくり、駅伝制を整備



Q.「王の道」を示したものとして正しいものを、次の地図の①～④のうちから一つ選びなさい (1992年 センター試験 第3問より引用)



答え ( )

前4世紀 アレクサンドロス大王に滅ぼされる

第1章 古代オリエントと地中海世界 §1.古代オリエント世界

※アケメネス朝の文化

- ✓文字：楔形文字を表音化→ (15) を作成
- ✓宗教： (16) (拝火教) の成立
  - ア)二神教 善神 (17) 悪神 (18)
  - 最後の審判を受ける (ユダヤ教、キリスト教に影響を与える)
- イ)中国に伝わり、 (19) と呼ばれる

6 パルティアとササン朝

※イラン人 (ペルシア人)


遊牧イラン人と農耕イラン人に分かれる

- ◎パルティア...遊牧イラン人が建国
- ◎ササン朝ペルシア...農耕イラン人が建国

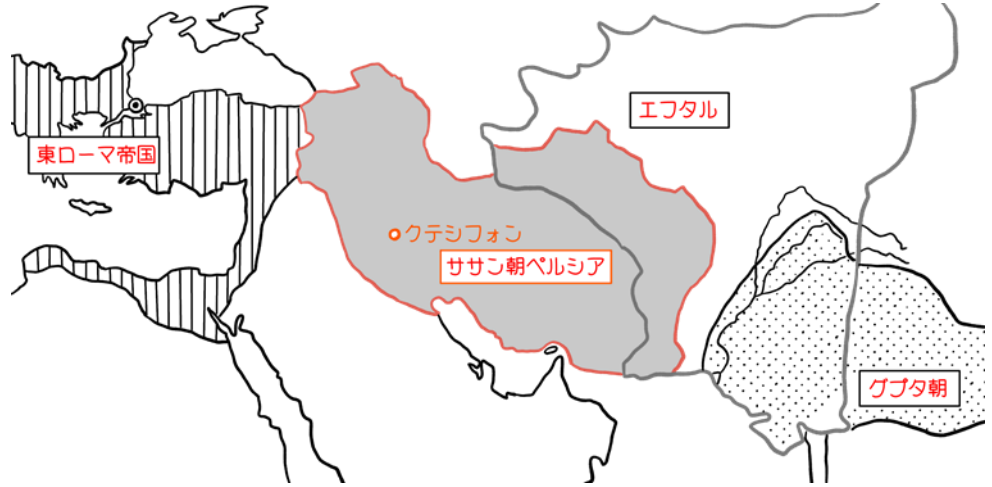
前3世紀

バクトリアとパルティアの自立

- ① (1) 現アフガニスタン
  - ✓アム川上流 (現アフガニスタン) のギリシャ人がセレウコス朝より自立
  - ✓トハラ (大夏) により滅亡
- ② (2) 都 (3)
  - ✓遊牧イランの (4) がセレウコス朝より独立
  - ✓中国の漢王朝と同時期 (中国名 )
  - ✓ミトラダテス1世の時が全盛期
    - ギリシャを愛する (フィルヘレネ) と刻んだコインを鑄造



バクトリア ▲ミトラダテス1世のコイン

ササン朝	<p>(5) 都: (6)</p> <p>① (7)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓パルティアを倒し、ササン朝を建国</li> <li>✓ (8) を国教に</li> </ul> <p>② (9)</p> <p>領土拡大</p> <p>西 ローマ帝国を撃破、皇帝 (10) を捕虜に</p> <p>東 インドのクシャーナ朝を征服</p> 
5世紀	中央アジアの遊牧民の (11) の侵入を受け、動揺
6世紀	(12) : 最盛期 対外: 西) 東ローマ帝国の (13) と争う 東) トルコ系の (14) と結び、エフタルを滅ぼす
7世紀	642年 (15) でイスラーム勢力 (アラブ人) に敗れ、滅亡

第1章 古代オリエントと地中海世界 §1.古代オリエント世界

ササン朝の文化

①宗教

ゾロアスター教の国教化

(16) の成立

→宗教家マニがゾロアスター教、キリスト教、仏教を融合させ成立  
ササン朝で異端とされ、弾圧

②工芸・美術

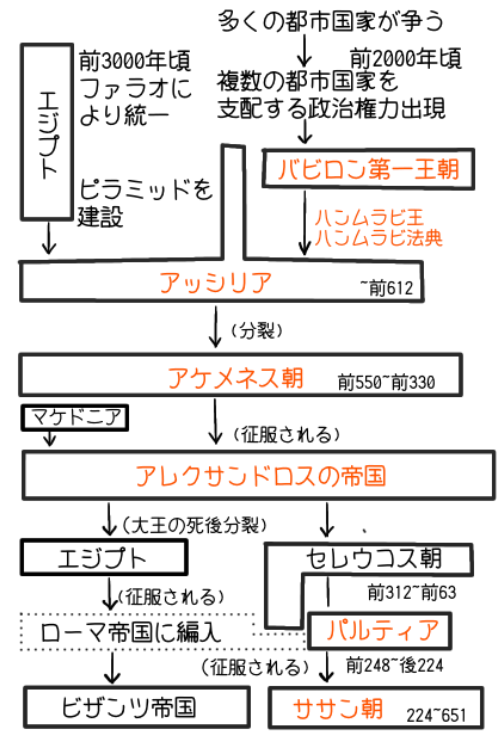
銀器、ガラス器、彩釉陶器などの技術

各地域に広がる

→日本にも伝来

飛鳥時代：法隆寺の獅子狩文錦

奈良時代：(17) の漆胡瓶



66年~70年 (3) )  
→鎮圧され、ヘロデ神殿は破壊されて消滅  
ヘロデ神殿の遺構の一部が現在の「嘆きの壁」  
として残る



132年~135年 (4) )  
→鎮圧され、以後ユダヤ人は自分たちの国を持つことなく、ヨーロッパ、西アジア  
の各国に離散し、(5) )と呼ばれる

7 世界史テーマ史1~ユダヤ人の歴史~

①ローマ帝国の支配

前63年 ハスモン朝はローマの武将

(6) )に敗れ、ローマの  
支配下に置かれる

ハスモン朝の断絶後、

がローマと協力関係を結んで、ヘロデ朝をたてる  
→エルサレムの第二神殿を拡張(ヘロデ神殿)

前7年(前5年)頃、パレスチナで (2)



(2) が生まれる

②中世・近代

ア) ディアスポラ後のユダヤ人

ユダヤ人は移住先でもユダヤ教の信仰を保ち、独自の社会・ルールを形成

ユダヤ教の会堂は (6) )と呼ばれ、(7) )と呼  
ばれる

宗教指導者が共同体を統治

✓イベリア半島~北アフリカに居住したユダヤ人→(8) )系

✓ライン川地帯ヨーロッパ北西部(ウクライナポーランドなどの東欧)に居住  
したユダヤ人→(9) )系(イディッシュ語を形成)

イ) ユダヤ人の迫害

11世紀以降、(10) )を機にキリスト教の宗教熱が高まり、ユダヤ  
人の迫害が強まる

1179年 第3回ラテラノ公会議

→(11) )を禁止

1215年 第4回ラテラノ公会議 教皇(12) )が提唱

✓キリスト教徒とユダヤ教徒の交際・結婚の禁止

✓ユダヤ人のギルドからの追放、土地所有の禁止

→土地所有を禁止されたユダヤ人は、主に金融業に従事するようになる

※ユダヤ人=「強欲な金貸し」というイメージが定着

第1章 古代オリエントと地中海世界 §1.古代オリエント世界

14世紀 (13) ) の流行

→ユダヤ人が毒をまいているというデマによって、ユダヤ人が迫害される



15世紀 イベリア半島で (14) ) (国土回復運動) が進展

→スペインがユダヤ人追放令を発布

多くのユダヤ人が東欧 (特にポーランド) やオスマン帝国に移住

※キリスト教に改宗してスペインに残ったユダヤ人はマラーノ (豚) と呼ばれ、差別される

オスマン帝国では (15) ) 制のもとでユダヤ人の自治が認められる

16世紀 西欧ではユダヤ人の迫害が強まり、各都市では (16) ) と呼ばれる居住区に強制隔離される



▲フランクフルトのゲットー (1868年)

③19世紀以降

ア) シオニズム運動の高まり

1880年~1920年代 ロシアで (17) ) と呼ばれるユダヤ人迫害が激化

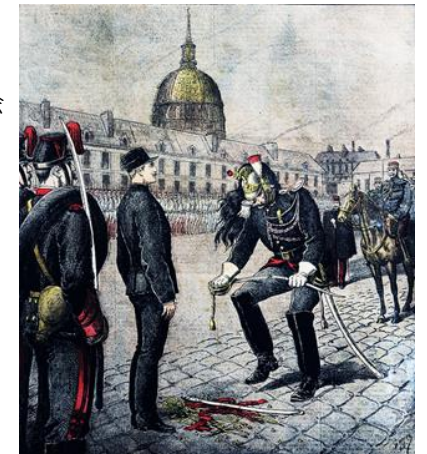
→多くのユダヤ人がアメリカに移住

1894年 (18) )

→フランスで起きた、ユダヤ系軍人の冤罪事件

この事件に衝撃を受けた (19) ) が (20) ) 運動を開始

※パレスチナのシオンの丘に戻って、ユダヤ人の国家再建を目指す



イ) 第一次世界大戦とパレスチナ問題の発生

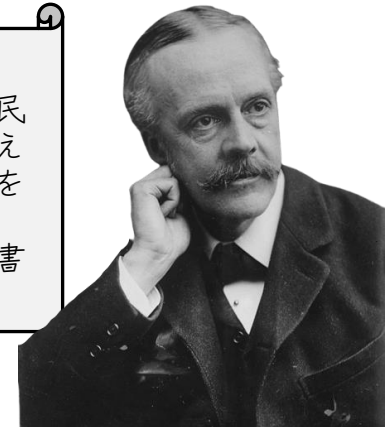
1917年 イギリスは (21) ) を出す

→アラブ人の独立を支援する (22) ) と矛盾

資料 バルフォア宣言

国王陛下の政府はパレスチナにおいてユダヤ人のための民族的領土 (National Home) を設立することを好ましいと考えており、この目的の達成を円滑にするために最善の努力を行うつもりです

『世界史史料 10 20世紀の世界I』歴史学研究会編、岩波書店 2006年より



外務大臣 アーサー・バルフォア

1920年 (23) ) でパレスチナはイギリスの委任統治領になる



# 第1章 古代オリエントと地中海世界 §1.古代オリエント世界

## ④第二次世界大戦とホロコースト

### ア) ナチスドイツによるユダヤ人迫害

1933年 ドイツでナチス政権が成立

↓

35年 (24) ) を制定 (ユダヤ人の市民権を剥奪)

↓

38年 (25) ) 事件 (ドイツ全土で起こったユダヤ人迫害事件)



▲破壊されたユダヤ人商店のショーウィンドー

ナチス＝ドイツは各地に強制収容所を設置し、1942年には、ユダヤ人の問題の最終解決策として (26) ) と呼ばれる大虐殺を開始

### 資料 アンネの日記

1944年4月11日

もしも神様の思し召しで生きることが許されるなら、私はお母さんよりもりっぱな生き方をしてみせます。つまらない人間で一生を終わりはしません。きっと世の中のため、人類のため働いて見せます



1944年7月15日

この世界が徐々に荒廃してゆくのを、私はまのあたりに見えています。いつかはすべてが正常に復し、いまのこういう惨害に終止符が打たれて、平和な、静かな世界がもどってくるだろうと。それまでは、なんとか理想を保ちつづけなくてはなりません。だってひょっとすると、ほんとにそれらを実現できる日がやってくるかもしれないんですから

※この2週間後の8月1日で日記は終わっている

『アンネの日記 (増補新訂版)』アンネ＝フランク著、深町真理子訳、文藝春秋、2003年より

### イ) 第二次世界大戦後

1948年 (27)

) の建国→パレスチナ紛争の勃発